タイトル：2020 年度教育セミナー（第 16 回）
日時：2020 年 9 月 17 日（木）～20 日（日）
オンライン開催
神山美輝（東京外国語大学大学院博士前期課程 1 年）

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今年度の中東☆イスラーム教育セミナーは第 16 回目にして初めての完全オンライン開催となりましたが、運営に当たってくださった AA 研の先生方のご尽力により、4 日間の全日程を無事に終えることができました。本当にありがとうございました。私は、今回の中東☆イスラーム教育セミナーには AA 研所員である指導教官の先生からお声がけを頂き、東京外国語大学の夏季集中講座として履修登録をして参加しましたが、本セミナーを受講して、今後自分が研究活動を続けていく上で非常に参考になったことが二つあります。

一つ目は、「中東・イスラーム」という大きな括りから、様々な学問領域、専門地域の発表を一度に聞くことができた点です。私はアフガニスタン・イランを中心とした現代の西アジアの政治・社会が専門であるため、これまでに参加してきた研究会などは同じ地域の研究者が集うものや現代の事例を扱うものがほとんどでした。しかし、本セミナーでは歴史学や文化人類学、言語学など多様な学問領域の視点から、中国、コーカサス、東南アジアなど、私にとって普段接する機会の少ない地域の事例に関する詳細な研究発表も聞くことができました。地域研究を行う上で自分の専門とする地域以外の事例や幅広い学問領域からの視座は重要でありますが、自分一人ではなかなか勉強しづらい部分があります。本セミナーを通じてそれらを耳から学び、疑問点をすぐに質問できたことは、とても有意義な時間でした。

二つ目は、研究者らが研究発表を聞く際に何を気にするのかを知ることができた点です。今回のセミナーでは 10 人余りの受講生に加えて、多くの AA 研の研究者や講師の先生方が一緒になって同じ発表を聞いていたわけですが、その質疑応答の様子を通じて、様々な専門分野の先生方がどのような点に着目していかに質問をするのか、発表の形式やレジュメの書き方、説明の順序などについて何を重要視しているのかを知ることができたのは貴重な経験になりました。ここで得たものは今後私が研究発表をする際の参考にさせて頂きます。

いわゆる「コロナ禍」にあり、今回は例年のように連夜の懇親会が開催できず、確かに先生方や受講生同士の交流が難しかった面は大いにありますが、それでも Gather を用いた「情報交換会」の実施など、いろいろな工夫してくださった運営の先生方のおかげで、最低限の先生方への挨拶や他の受講生との情報交換などは行うことができました。来年はぜひ私も発表者として参加し、（状況が許せば）懇親会等でも参加者の皆さんと研究談義に花を咲かせることを楽しみにして、また一つの目標にしてこれからも研究に励んでいく所存です。